

## 活力を創出する研究・研修を紹介します

### 「農林業の知と技の拠点」で新たな取組がスタートしました！

担い手の減少・高齢化や、産地間競争の激化、急速に進化する先端技術への対応など、本県農林業を取り巻く諸課題に的確に対応するため、農林総合技術センターの各機関の内、山口市の農業試験場と林業指導センターを、防府市の農業大学校に移転・統合し、高度な技術を持つ即戦力人材の育成と、先端技術の開発に一体的に取り組む「農林業の知と技の拠点」を整備しました。

### 「農林業の知と技の拠点」 重点取組方針

#### 人材育成

地域の中核経営体等から求められる「即戦力人材」の育成に向け、学生教育・社会人研修の双方を充実・強化

#### 新技術開発

国や大学、民間企業等との連携を一層強化し、「やまぐち型スマート技術」など本県の実態に応じた新技術開発を加速化

#### 連携・交流

広く県民に開かれ活用されるよう、地域との交流イベントを通じた農林業理解の促進や6次産業化支援等の取組を充実



▲訓練装置を活用した伐倒訓練



▲やまぐち型スマート技術の開発



▲地域との連携・交流イベント開催

統合メリットを活かした総合力を発揮するとともに、民間企業や大学、関係機関等との連携を一層強化することで、本県農林業の多様な課題への解決力を高め、県民に愛され活用される「知と技の拠点」として、新たな取組を力強く進めていきます。  
〔企画戦略部 企画・連携グループ〕

#### <主な内容>

「農林業の知と技の拠点」で新たな取組がスタートしました！

企画戦略部 企画・連携グループ

#### ◇各部の取り組み

全国初！農大生の会社「一般社団法人やまぐち農大」設立！

農林業担い手支援部 教務課（農業大学校）

土地利用学科の1期生、日々学修に励んでいます！

農林業担い手支援部 学生支援課（農業大学校）

ICTを活用して「はなっこりー」の出荷時期・量を予測！

農林業技術部 農業技術研究室

エリートツリー種子採取始まる

農林業技術部 林業技術研究室

種雄牛の産肉能力検定で「脂肪交雑」県歴代1位！「殿池久」号

畜産技術部 家畜改良研究室

土着天敵を活用したトマトのタバココナジラミの防除

農林業技術部 環境技術研究室

# 全国初！農大生の会社「一般社団法人 やまぐち農大」設立！

令和5年7月10日、山口県立農業大学校において、「一般社団法人やまぐち農大」の設立総会が開催されました。

この会社は、農大生が法人経営の中核を担うために必要な経営管理能力やビジネス感覚を身に付けることを目的に、事業計画の決定プロセスや、会計・決算、経営責任等を実体験として学修できるフィールドとして設立したものです。



▲設立総会の様子



▲学生全員が社員（全国初）

総会は、農大の新カリキュラム「会社経営論」等の演習の一環として、学生のみで司会進行されました。議事では、役員を選出し、代表理事に園芸学科野菜専攻2年の稲垣晃太郎さんと、理事に畜産学科肉用牛専攻2年の岡千空さんと、園芸学科花き専攻2年の田村颯麻さんが就任しました。

稲垣代表理事は「今から色々な事業を始めるにあたって、社員全員の意見を聞きながら運営をしていきたい。農業従事者の高齢化が進んでいるので、若い世代の私たちが経営管理能力を身に付けて、後継者として営農法人等で活躍したい。」と意欲を語っていました。

農業大学校の学生のみを構成員とする法人の設立は全国初であり、在校生57人全員が社員として参加し、農産物販売事業や新商品開発事業を行っていきます。〔農林業担い手支援部 教務課（農業大学校）〕

## 土地利用学科の1期生、日々学修に励んでいます！

令和5年4月、農業大学校に土地利用学科が新設され、1期生11名が入学しました。この学科では、水田複合経営に必要な知識・技術を幅広く学びます。

まずは学修の基礎となる水田での作物生産技術の習得に向け、水稻、大豆及び露地野菜等の栽培に取り組みながら、大規模圃場での実習や、ドローンやリモコン式草刈機等スマート農業技術の実習も組み合わせ、日々学修に励んでいるところです。



▲大規模圃場での田植え



▲営農管理システムの活用



▲リモコン式草刈機の操作練習

この学科では、営農管理システム（KSAS）に圃場や生産に関する情報だけでなく、学生全員の日々の実習内容に関する情報も全て入力し、データの一元管理を行っています。トヨタ生産方式の導入にも取り組んでおり、今後は蓄積したデータをもとに、生産計画や実習体制等の改善活動を続けながら、学修内容を進化させていく予定です。

土地利用学科の取組はスタートしたばかりですが、県内の農業生産法人の後継者、地域農業の核となる人材の育成を目指して頑張っています。〔農林業担い手支援部 学生支援課（農業大学校）〕

# ICT を活用して「はなっこりー」の出荷時期・量を予測！

はなっこりーは収穫適期がとても短く、貯蔵もできないため、JA等の流通関係者は、その日の収穫量に応じた流通販売に苦心しています。それらの問題を解決するため、はなっこりーの出荷日と出荷量を予測するツールを作成しました。



具体的な使用方法は、はなっこりー出荷予測ツール（マイクロソフトエクセルシート）に、品種名、定植日、栽培地、栽培面積を入力または選択し、気象予報値取得のボタンを押します。すると、生育モデルと日平均気温予報値から、日別や旬別の出荷量予測値が計算されるしくみとなっています。

さらに、スマホで撮影した植物群落画像から得られる植被率を入力することで、生育の良否に応じた予測精度の向上も可能となっています。  
〔農林業技術部 農業技術研究室〕

## エリートツリー種子採取始まる

政府は、花粉症対策のため“現在のスギ人工林を今後 10 年で2割伐採・植え替えを実施する”ことや、“全スギ苗木生産量に占める花粉の少ないスギの割合を 10 年後には9割以上にする”ことを目標として掲げました。

本県においても持続的森林経営のため再造林を推進しており、花粉症に配慮した苗木の生産が急務となっています。このため、当センターでは造林コストを低減することが期待できるエリートツリー<sup>\*1)</sup>のミニチュア採種園<sup>\*2)</sup>の造成に、ヒノキは平成 30 年度、スギは令和元年度から着手しており、いよいよ本年から種子の本格採取を開始します。



▲スギジベレリン処理



▲ミニチュア採種園スギ着果状況



▲ミニチュア採種園ヒノキ着果状況

今後、エリートツリーの種子で育てられた苗木の需要が高まることが予想されるため、県内産エリートツリーを迅速に造林者に提供できるよう、種子の安定供給に取り組んでいきます。

〔農林業技術部 林業技術研究室〕

- \* 1) エリートツリー（特定母樹）：成長が良く（在来の系統の概ね1.5倍の材積）、材の剛性が同様林分の平均以上、採材に支障がない幹の通直性、一般的なスギ・ヒノキの花粉量の概ね半分以下として選抜されたクローン
- \* 2) ミニチュア採種園：従来の採種園は植栽後、採種まで10年以上かかるのに比べて、ミニチュア採種園は着果促進としてジベレリン処理などの細かな管理を行うことにより、4年後から採種を行うことができる採種園

## 種雄牛の産肉能力検定で「脂肪交雑」県歴代1位！「殿池久」号

山口県では、肉量、肉質に加え、牛肉の「おいしさ」に優れた黒毛和種種雄牛を育成し、凍結精液を生産して県内畜産農家へ供給しています。

このたび、次世代の基幹種雄牛候補として育成中の「殿池久」号の産肉能力検定（現場後代検定）が終了し、**脂肪交雑**（牛肉の霜降りの度合い）が**県歴代1位**と非常に優れていました。枝肉重量も県歴代3位となっており、肉質だけでなく、肉量にも期待できる種雄牛です。



▲「殿池久」（とのいけひさ）号



▲検定牛の枝肉（BMS No.11）

## 現場後代検定成績

	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	推定歩留	脂肪交雑	4, 5等級率	5等級率
	(kg)	(cm <sup>2</sup> )	(cm)		(BMS No)	(%)	(%)
殿池久	502.8	67.8	8.6	75	9.1	94	69
	3位	4位	3位	4位	1位	6位	2位
【参考】 R4全国 枝肉成績	487.5	63.8	8	74.6	7.6	86	47

※「殿池久」号検定成績下段は県有種雄牛歴代順位 ※R4全国枝肉成績は去勢、雌の加重平均

また、昨年開催された第12回全国和牛能力共進会では、牛肉の品質を評価する「肉牛の部」に、「殿池久」号の産子が県代表牛として出品され、優秀な成績を収めました。「殿池久」号の今後のさらなる活躍が期待されています。  
〔畜産技術部 家畜改良研究室〕

（※現場後代検定：（公社）全国和牛登録協会が種雄牛の産肉能力を評価するために定めた検定方法です。県内農家において、検定する種雄牛の子牛（検定牛）を肥育し、枝肉成績を調査します。  
※全国和牛能力共進会：5年に1度全国規模で開催され、「和牛のオリンピック」と称される大会です。）

## 土着天敵を活用したトマトのタバココナジラミの防除

タバココナジラミはトマトを加害し被害を与える他、黄化葉巻病を媒介する重要な害虫です。本虫の対策として天敵や忌避剤による防除が考案されていますが、県内での導入を検討するため、**天敵のタバコカスミカメと忌避剤**（商品名ベミデタッチ乳剤）を用いた防除体系の有効性を冬春トマトにおいて確認しました。



▲タバコカスミカメ成虫



▲トマトの株元に設置したバーベナ

試験では3月上旬にタバコカスミカメ成虫を放飼、同時に天敵が定着しやすいようバーベナ（品種タピアン）をトマトの株元に設置、定植し、ベミデタッチ乳剤を7日間隔で3回散布しました。その結果、**タバココナジラミが増える前に発生を抑える事ができ、有効性が確認できました。**

タバコカスミカメは市販されており、前年にゴマやクレオメに集まった虫を捕まえて冬越させれば、翌年春に放飼する事もできます。

タバココナジラミは防除が難しい害虫のため、本防除法も防虫ネットや薬剤散布等と組み合わせる必要があります。  
〔農林業技術部 環境技術研究室〕

## &lt;山口県農林総合技術センター 企画戦略部 企画・連携グループ&gt;

〒747-0004 山口県防府市牟礼 10318 TEL：0835-28-1211

e-mail：a17201@pref.yamaguchi.lg.jp

URL <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/>



▲ホームページ



▲紹介動画はこちら